

Ⅱ 生体防御医学研究所主催セミナー

生体防御医学研究所主催セミナー

本研究所主催のセミナーを昭和60年度より開催している。昭和61年度は前年度に引き続き遺伝学部門がセミナー係を担当した。第25回より第47回までのセミナー講演者および演題は次の通りである。

第25回 昭和61年 4月15日 (火)

木村彰方助手 (遺伝学部門)

「マウス MHC class I 抗原遺伝子群の発現制御機構」

第26回 4月28日 (月)

大野 乾博士 (Institute of the City of Hope)

「作曲の原理は遺伝子塩基配列構成の原理に基づく」

第27回 5月23日 (金)

Dr.Jaanos Sugaar (ハンガリー国立癌病理学研究所)

“Drug-induced changes in cell proliferation and differentiation”

第28回 6月20日 (金)

Dr.Scott McIvor (Genentech,Inc., South San Francisco,USA)

“Gene Therapy — Present Status and Future Prospectives”

第29回 6月21日 (土)

Dr.Andrew McMichael (Dept.of Clinical Medicine, John Radcliffe Hospital, Univ.of Oxford, UK)

“An HLA class I Immune Response Gene”

第30回 6月16日 (月)

Prof.John A.Hansen (Dept.of Med.Oncology, Univ.of Washington, USA)

“T cell Differentiation Antigens and Their Role in Cell Activation”

第31回 7月22日 (火)

鈴木憲明 院生 (生化学部門)

「ラット癌で豊富に発現される L T R 様塩基配列」

第32回 7月22日（火）

志方 出院生（生化学部門）

「癌細胞および増殖細胞において共通に発現される遺伝子の単離と解析」

第33回 8月25日（月）

吉開泰信助手（免疫学部門）

「ヒトリンパ球抗原レセプター遺伝子の解析」

第34回 8月26日（火）

高津聖志教授（熊大・医・免疫研・生物学）

「B細胞の分化とリンフォカイン」

第35回 10月7日（火）

馬場恒男教授（細胞学部門）

「癌化学療法の発展のための工夫」

第36回 10月4日（土）

山名清隆教授（九大・理・発生学）

「アフリカツメガエル初期胚のパターン形成」

第37回 11月7日（金）

村松正実教授（東大・医・1生化）

「真核細胞リボソーム遺伝子の構造と発現調節」

第38回 11月13日（木）

志村英生助手（ウィルス学部門）

「ウィルス感染初期過程の解析」

第39回 11月18日（火）

山村研一教授（熊大・医・遺伝研・遺伝生物）

「トランスジェニックマウスにおける遺伝子の発現の調節」

第40回 11月10日（月）

畑中正一教授（京大ウィルス研）

「成人T細胞白血病発症の分子機構」

第41回 12月9日(火)

内田 驍教授(阪大細胞工学センター)

「細胞内への高分子物質の注入法と核蛋白の核内移行の解析」

第42回 12月19日(金)

原田文樹院生(遺伝学部門)

「21-ハイドロキシラーゼ欠損症の分子遺伝学的解析」

第43回 1月19日(月)

Prof. Jan J. van Rood (Dept. of Immunohaematology, Univ. of Leiden, Netherland)

“New Locus in HLA Region”

第44回 3月5日(木)

岸 裕幸助手(感染防御学部門)

「溶血性貧血に伴うアルドラーゼAの異常：一塩基置換により誘導される熱不安定性」

第45回 3月9日(月)

近藤宗平教授(大阪大学名誉教授)

「ショウジョウバエの遺伝子由来の癌」

第46回 3月27日(金)

鳥山 一博士(東大・医・免疫)

「高コピーベクターによるインターロイキン大量産生株の樹立」

第47回 3月20日(月)

清水憲二助手(九大・理・分子遺伝)

「がん遺伝子と信号伝達」